

週の初めの日に

2023年3月26日

使徒の働き 20章1～16節

序：3年間のエペソでの働き、使命を果たしたパウロ

計画：19・21 マケドニアとアカイアを通してエルサレムに行く
その後に、ローマを見る

I. エペソを去り、マケドニア、ギリシア（アカイア）へ

(1)エペソの聖徒たちを励まし、別れを告げた

諸問題を有するコリント教会への心配（コリント教会への手紙をエペソで書く）
テトスを送って、コリント教会の実情を調査、トロアスで会う予定が実現せず

(2)不安を抱いてマケドニアに渡る（Ⅱコリント 2・13）

テトスに会い、好転の報告を受ける（Ⅱ 7・6～7）
マケドニアの諸教会（第二次伝道旅行で開拓）訪問：多くのことばで励ます

(3)アカイアのコリントで3ヶ月滞在

「ローマ人への手紙」執筆

(4)シリアに向けて出航の予定が、ユダヤ人の陰謀により、予定変更

II. 復路

(1)再び陸路マケドニアに戻る

同行者は異邦人教会の代表者たち（パウロとともにエルサレム教会へ行く）
感謝の挨拶、義援金を渡すため

先発：ソパテロ（ベレア人）、アリストタルコとセクンド（テサロニケ人）
ガイオ（デルベ人＝ガラテヤ）とテモテ、ティキコとトロフィモ（アジア）

5節 私たち＝ルカもいる

ピリピから船出、5日後トロアスで合流 7日間滞在

(2)トロアスでの集会

①週の初めの日（主日）に礼拝：安息日がキリスト教会では土曜 ⇒ 日曜へ

②みことばの説教と対話、聖餐と愛餐
長時間、夜中まで

③集まったのは屋上の間
ともしび（たいまつ）

④ユテコ青年の転落

空気のよどみ、日中の労働の疲れ、夜遅い時間、涼しい窓辺で熟睡、転落死を確認（同席していたルカは医者）

人々の動転

パウロ：生き返ると確信

エリヤ（Ⅰ列王 17・21～22）

エリシャ（Ⅱ列王 4・33～35） 死んだ子どもを生き返らせた

イエス・キリスト（ナインのやもめの息子、会堂管理者の娘、ラザロ

降りて行って、彼の上に身をかがめ、抱きかかえて言った

「心配するな。まだ、いのちがある。」

ユテコ：生き返った

食事をともにし、明け方まで語り合う（事態解決後、続行）

(3)トロアス～アソス～ミティレネ～キオスの沖～サモス～ミレトス

パウロだけ陸路

アソスで同船

パウロの計画：エペソには寄らない

まっすぐエルサレムへ急ぐ（五旬節には到着したい）

Ⅲ. 結び

(1)御霊に示され、パウロ自身も願った計画（19・21）は細かい点では再検討や変更をせざるをえないが、大枠はその通りに実現して行く

私たちの場合も同じである（予定変更は念頭に）冷静に、柔軟に、信仰的に解決

(2)時間の制約の中で何を優先するのか、手順はどうするのか、選択を誤りなく

(3)安息日の変更（土⇒日）は、イエス・キリストの復活に基づく

安息日⇒主日（聖日）

(4)主日にキリスト者がするのは

①主とともに礼拝する（みことば、祈り、賛美、ささげもの）

②主にある交わりをする（聖餐。愛餐、語り合う）

③主の愛のわざを行う（いやし、助け、慰め）

(5)それぞれの賜物、使命を与えられた主がそれらを用いて完うできるよう導き

助けてくださる ∵それは主ご自身のみこころ、御業